

# 権利は全ての人に同等に

福祉国家と呼ばれるフィンランド、スウェーデン、デンマークの障害者福祉に関する制度が、写真と、平易な文章で紹介されている。

例えばデンマーク。93年当時の、24人の重知的障害を持った人が暮らしていた居住施設は個室4部屋で1グループとし、共用のリビングとキッチンからなっていた。それが04年には、同施設は移転、新築され、新しくできたグループホームは、1人あたり2部屋に台所、トイレ・シャワーがあり、65㎡が権利として保障されていた。「度肝を抜かれる快適な住環境とスタッフの支援体制」と筆者は評価する。そして、この国で「施設」という言葉を使わなくなった

のは、「家」が障害のある人にも保障され、障害があるゆえに様々な配慮が必要であることを誰もが「当然」と思うようになり、そのために施設のような居住空間も、同じ「家」と認識されるようになったからではないか、と分析する。

当事者・関係者へのインタビューも多く、その言葉から、これらの国々に根付く、「障害を持つ人々も同年齢の市民と同じ権利を有し」「それは、自分だけでなく、他者にも保障されるすべての人の権利」だとする考え方・見方が見えてくる。

これから障害者権利条約を批准する日本に求められる意識のあり様を考えさせられる一冊。



## 『北欧 考える旅 福祉・教育・障害者・人生』

著者：蘭部英夫

定価：1,700円（税別）

発行：全国障害者問題研究会出版部